

## 国際保健戦略における政治性から経済性重視への 政策転換に関する考察

ユアサ ムトユキ クテノ セイキ ワカイ ススム  
湯浅 資之\* 建野 正毅\* 若井 晋<sup>2\*</sup>

1978年に提唱されたプライマリ・ヘルス・ケアは社会正義、公正、人権という政治的インタレスト（関心）に立脚し、「全ての人々に健康を」保障しようとする保健戦略であった。だがその一方で、米国を中心とする先進国、多国籍企業が強く求める貿易・資本・金融の自由化を推進する「グローバリゼーション」は世界を席卷するようになり、新自由主義経済体制の興隆に伴い全世界のあらゆる領域に経済性優先の価値基準がもたらされるようになった。その潮流を支える国際機関として、国際通貨基金や世界貿易機関とともに世界銀行は開発途上国の開発に大きな影響力を持つに至る。

健康への投資が経済成長の基になる論理をもった世界銀行は、1990年代保健への財政支援の優越性を獲得し、国際保健でも大きな発言力を持つようになった。すなわち今日では、公正、人権といった政治的インタレストは影を潜め、替わって予算配分、費用対効果、コスト削減、効率といった経済的インタレストが国際保健戦略の舞台で議論の中心となってきている。保健戦略の経済性への傾倒は「全ての人々に健康を」追及する世界保健機関の基本戦略に本質的問題を提起していると思われる。

**Key words** : グローバリゼーション, 経済性, 世界銀行, 世界保健機関, 国際保健戦略, ヘルス・セクター・リフォーム

---

\* 国立国際医療センター国際医療協力局

<sup>2\*</sup> 東京大学医学部国際地域保健学  
連絡先：〒162-8655 東京都新宿区戸山1-21-1  
国立国際医療センター国際医療協力局派遣協力課  
湯浅資之